

## 第17回大分県障がい者スポーツ大会

3年ぶりの大分県障がい者スポーツ大会が開催されました。7月22日(日)は卓球(会場:大分県身体障害者センター)と水泳(会場:大分市営温水プール)、そして29日(日)には、陸上(会場:昭和電工ドーム)と、フライングディスク(会場:昭和電工グラウンド)が開催されました。

今大会は、本年10月29日~31日に開催される第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会 とちぎ大会」個人競技代表選手の選考も兼ねていました。



陽ざしの会は、聴覚障がい者の選手をサポートするためボランティアとして参加。



22日の卓球と水泳は、簡略化した開始式のあと競技が行われ、卓球は体育館の試合会場で、水泳は2階観客席で手話通訳と同じ場所に席を設け、前もって用意しておいた次第やあいさつ文をイーゼルに設置、手持ちのホワイトボードも使って情報保障を行いました。

29日は、コロナ感染予防のため選手入場などを省略した開会式が行われ、来賓あいさつや宣誓などが電光掲示板(大型スクリーン)に映され、そこに手話通訳とともに字幕を付けるという方法で行われました。



開会式のあとの陸上競技では、選手招集・受付場所からスタートライン。続いて表彰場所へと動き回りながらの要約筆記は大変でしたが、コロナ禍前と比べて出場する選手が少なかったこと、競技間の待ち時間が長かったこともあり、少しは余裕があったのではないかと感じました。



一方、フライングディスクは、芝生の上の至る所にテントが張られていたものの、晴天の下、日焼け止めを塗ったりして、汗をぬぐいながらのボランティア活動でもありました。



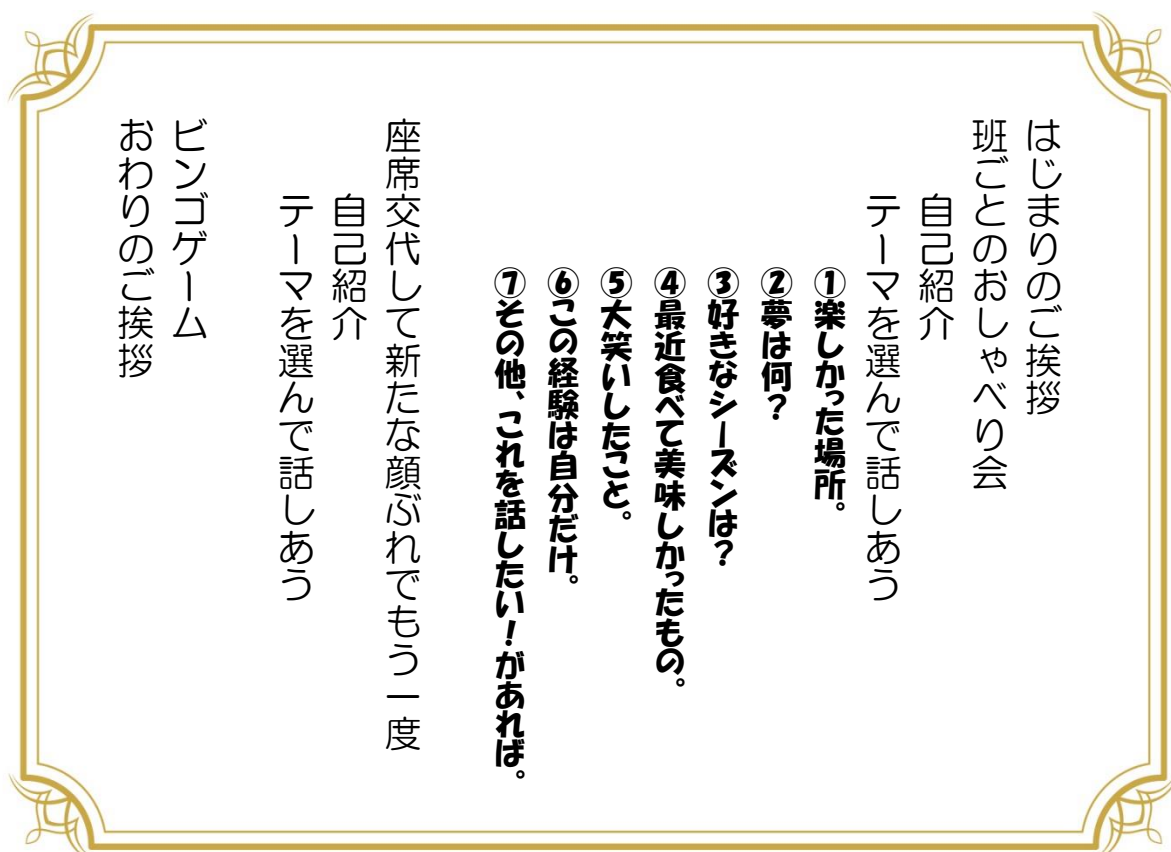
要約筆記のボランティアは、卓球、水泳、開会式のスクリーン掲示、及び陸上、フライングディスクをそれぞれ4名で担当しました。

# おしゃべりして笑おう 交流会で

6月4日（土）、今年度第1回の交流会が開催されました。会場は大分市王子新町の大分西部公民館研修室。いつものセンターや福祉会館とは違った場所で、少し不安がありましたが、企画部員のみなさんが駐車場でのお出迎え、誘導をしてくれました。

参加者は、大分県難聴者協会から6名、夢サラダから3名、聴力障害者福祉会から1名、青年部から1名、そして陽さしの会は15名の計26名の顔ぶれ。大盛況でした。

今回は、「とにかくみんなでおしゃべりして笑いあう時間を持とう」というのがテーマ。以下のようなスケジュールで進められました。皆さん、楽しんでいただけましたか？



班ごとのおしゃべりでは、テーマを選んでの自己紹介を行いました。いろんな特技を持っていたり、おもしろい活動をされていたり、興味深い話をたくさん聞くことができました。もっと詳しく話を聞きたいと思いつつも、あっという間に座席交代の時間が。

もちろん要約筆記も行われ、手書きの全体投影と、班ごとでは手書きだけでなくパソコンノートテイクも実施。前回のノートテイク交流会に引き続き、利用者のすぐ近くで、私たち要約筆記者にとっては実地訓練にもなる貴重な時間でした。

恒例となったビンゴゲーム大会は、非常食や防災用品が賞品で、防災意識を高める一助にもなりました。ゲームの賞品をはじめノートテイクに使った用紙やペン、検温計はイオンレシートキャンペーンの助成金で購入したもの。いつもご協力いただくマックスバリュ賀来店さまにも感謝します。